

家庭



いろいろの子供

ひさ子

まだ何色にも染まつて居らないままで白色のやうなきれいな子供の心を、黒くも、赤くも、茶にも、紫にも染めるのは、果して誰の手でございませうか。人の性は善であるとか、悪であるとか、遺傳とかいふ六かしの議論はしばらくおきまして、とにかく子供の心といふものは、割合にまじりけの少ない美はしいものでございませう。それ

に、實際はなかくいろいろでございまして、人の心が面のやうにちがふと同じことで、子供の心、行も實に十人十色で、皆それぞれちがつた色をもつて居ります。之は皆、染める人や、染料や、染方や、乾き方がちがふからでございませうが、子供の心の染まつたのは、縮緬を染めなほしたり、模様をぬくやうに、容易にはまゐりません。して見ると、子供を教育する母、家庭、幼稚園、學校、社會は、實に一分一秒も其注意を怠ることはできません。少しも油斷ができません。

こういふことは、もとより知れきつた話ではございますが、私は先日染め損つた絹を染めなほして好い色にしたのを見まして、あゝ子供はこういうふわけにはゆかない、とつくづく思ひましたものですから、そこでこういふことを申出したので

ございます。さて、これから、殆ど純白に近いのやら、もはや色々に染まつて来たのやら、子供の色々を擧げて見ませう。但し幼稚園時代の幼児でございませう。

ある子供は、子供不相應に大人の顔色を読みまして、物事にかくしだてをしたり、偽を言つたりいたします。其原因をたづねましたところが、全く其家庭にわまりきびしく此子を叱る人が一人ございまして、それがかわいそうだといふので、一人の人は、何時でも其人に秘密で、此子をすかしたり、物を遣つたりしてかわいがる、といふことでございます。

ある子供は、又誠に情の激する質で、笑ふのも、泣くのも、怒るのも、まるで氣むづかしい大人のやうで、怒り出すといつまでもうらめしやうに、

むし〜と腹を立て、居るのですが、此子の父親は芝居の世話方でございまして、此子はつひ毎日芝居にあそびに行くので、其身振、臺詞を上手にまねること、泣いた、怒つた、人を斬つた、笑つたなど、くはしく話をするには、驚くばかりでございませう、此芝居見物は、此子の性質を前のやうにする一大原因ではございませうか。

ある子供の家庭は、誠に春のやうな温かい空氣が満ちて居るらしく、いかにも、むつまじく楽しく暮して居る様子でございませうが、果して其子は實に子供らしく、天真爛漫で、邪なところは少しもなく、おそろく生れたまゝにきれいで、悪いところは少しもまじつて居らないやうに見えます。

ある子供は、又、筋肉がたく太りまして、腕力で人に抵抗することが強く、至て強情でござい

ますが、其父母はいつでも此子を叱るのに、すぐ
体罰を用ふるそうで、しばつたり、打つたり、投
げたりするといふ話でございませう。随分無茶なこ
とでございませうが、此子の腕力と強情は、多分此
体罰濫用の結果でございませう。

ある子供は、調子はづれて滑稽者で、何とも言
はれない妙な動作を始終いたしまして、人が眞面
目で言ふことも、まるで滑稽のやうに聞き流しま
すが、之は全く其家庭に多くの小僧が居りまして、
毎晩なぐさみ半分に此子をからかつて、おもちゃ
にするといふことが、原因らしいのでございませう。
ある子供は、一寸見たところ、まるで小さい老
女のやうで、其起居動作の静かなこと、言葉の大
人らしいこと、遊の不活潑なこと、どうしても子
供とは見えません、之は其家庭の一人の老人が、

此子を行儀のよい、しとやかな女にしようといふ
ので、一から十まで小言を言ひ、一寸よこずわり
をしても、足をひねる、といふ風に、骨を折つて
しつけた結果のやうでございませう。

昔いろは料理

石井泰次郎

(わの部)

若布まきいも拵へやう

さつまいも生にて切りたして、輪切にして、皮を
むきて、わかめのゆでたるを以て、板の上になぎ
葛粉かうどんの粉をふりかけて、一面につけて、
いもをまきて、いとにても、竹串にても、そつと
とめて、巻めのはぐれぬやうにして、鍋に入て煮
るなり。